
空を見る日

美晴

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

空を見る日

【Nコード】

N0412A

【作者名】

美晴

【あらすじ】

10月10日は『空を見る日』だそうです。当麻と伸の話です。懐かしいです。東の間の平和なひとときの会話。

空の青さを見つめっていると、私に還る場所があるような気がする。
だが……

「この後って何だったけ？」

「はあ……いきなり何さ」

人が洗濯物を干しているのを、後ろで手伝いもせずに、ボーツと
見るなあと思っていたら、いきなり文学的な事を言い出した当麻
を、伸は胡散臭いものを見るような目で見た。

「なんか、どうしても……思い出せなくてなあ」

伸を無視したような言い方だったが、ため息をついただけで特に
追求はせず、話題に乗ることにした。

「知らないね。分かるのは、北原白秋だってくらい……いや、島崎
藤村だっけ？」

とにかく昔の人だった。

いつもは無駄に難しそうな顔をしている当麻だから、たまにはこ
んな話に付き合ってもいいかも……そんな仏心を出した伸だったが、
当麻の

「腹が減ったなあ……」

という、心底切なそうな声に、顔がひきつる。

バスケットから取り出した、まだ濡れた洗濯物をギュツと握りし
める。

「……ねえ当麻、言葉はキャッチボールって、知ってる？」

ニコニコと、微笑みながら当麻の目の前に立つ。

伸の表情はにこやかだったが、その目は笑っていなかった。

伸の表情はにこやかだったが、その目は笑っていなかった。

「ああ……そついやあ。喉まででかかっているんだ……たしか」

「……………」

シカトかよ！！！

堪えるように、上を仰ぎ見たら、透き通った青空が見えた。

吸い込まれそうだ。

『私に…還る場所が……』

目に光が染みた。

「伸……今日の夕飯ってなんやるっ」

急に現実に戻され、清々しい空気ぶち壊され、猛烈に腹が立つ。

「しるかああっつ！！！！！！！」

手にしていた薄手のブランケットを、当麻の頭に叩きつけ、その場を立ち去った。

「そつか……谷川俊太郎だよ」

目を閉じ、詩を思い出す。

『空のソネット』の中の有名な一句だった。

空の青さを見つめていると、私に還る場所があるような気がする。

だが、雲を通り抜けてきた明るさは……もはや空には還っていけ

ない……

「なあ……伸。お前に還る場所はあるか？」

本当はそれを彼に聞きたかった。

怒らせちまったなああと、反省する。

寝っ転がり、ブランケットにくるまり空を見た。

目が痛くなるほどの、青空。

何処までも広がっていくくせに、限界をつきつけられる。そんな気がする。

還る場所はあるか？

「ゆっくり作るさ」

そう呟くと目を閉じた。

そして、思い出す。彼にそれも伝えたかったのだと……。

眩しさに目を閉じると、瞼に焼き付いた彼の『青空』が見えた。

あそこへは還れないのだと……。

(後書き)

10月10日『空を見る日』何故かはわかりません。ラジオでそう
言っていたのですが……。その日空を見てみたら、素晴らしくき
れいに見えました。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0412a/>

空を見る日

2010年12月17日18時34分発行